

**談話室**

●●●●●●●●

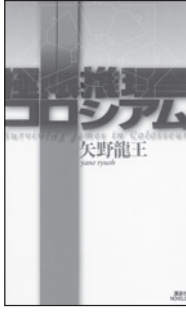
小説家  
**矢野 龍王** さん

---

profile

東京都生まれ。早稲田大学理工学部卒業。'97よりパズル作家として活躍。'04「極限推理コロシウム」で第30回メフィスト賞を受賞し、文壇デビュー。著書に「時限絶命マンション」がある。

矢野  
龍王



講談社ノベルス  
定価861円（税込）

小説家という文学部出身のイメージが付き纏いますが、特にミステリー作家を筆頭に、最近はどうでもなくなりました。かく言う僕も、出身は理工学部で、子供の頃から得意な教科は専ら算数と数学でした。肝心の国語はさほど得意でもなく、それでよく小説家を志したものだとながら感心しています。

二つの館で生き残りを賭けた推理サバイバルゲームが展開される小説「極限推理コロシウム」で文壇デビューを果たしたのが、去年のことです。この作品は柏原崇さん、綾瀬はるかさん主演でドラマ化もされ、話題になりました。おかげさまでサバイバルゲーム小説の草分け的存在として、断続的に仕事を頂いています。

しかしながらここに至るまでの道のりは必ずしも平坦とは言えないものでした。寄り道もしました。その一つがパズルでした。

小説家としてなかなかデビューできなかったこともあり、気分転換にパズル作家でも目指してみようかな、という軽いノリでパズル雑誌に作品を投稿してみたところ、運よく採用されたのがきっかけでした。

一口にパズルと言っても、クロスワードから迷路、間違い探しに至るまで、いくつもの種類があります。僕の場合、はじめて採用された作品が、

ふくめん算でした。文字だけで数式が作られており、同じ文字には同じ数字を代入して、数式を完成させるというシンプルなルールのパズルです。そしてどこからどう見ても数学です。

せっかくなので、自作のふくめん算を一つ紹介します。ナポレオンは昔「世の辞書に不可能はない」と断言したそうですが、これをモチーフにしたものが次の作品です。

よのじしよ  
+よのじしよ  
-----  
ふかのうなし

暇を見つけて、ぜひ解いてみてください。

ところで様々なジャンルのパズルがある中で、どうしてわざわざふくめん算を選んだのか？ はっきりとした理由は覚えていませんが、単に数学が好きだったからなのかもしれません。

その後もふくめん算の他、素因数分解の考え方を応用したパズル「因子の部屋」、割り算の余りに注目したパズル「ア・マルーネ」など、数学と縁のある作品を次々と発表し、好評を博して参りました。これらを足掛かりにして、現在の小説家としての自分があることを思うと、数学には足を向けて寝られません。

国語や社会は時代の流れとともに、ダイナミックに内容が変化していきます。今日常識だったことが、一年後には非常識になるということも往々にしてあります。しかし数学はどんなに時間を経ようとも一度身につけた知識が覆されたり、いなくなることはありません。そんなところも数学の魅力だと思います。

などと偉そうなことを言いながら、大学を卒業して16年……さすがに微積分も三角関数もほとんど忘れました。いけませんね。

これを機に、僕自身も小説と数学、あるいはパズルと数学の融合の可能性を模索してみたくになりました。まだまだ数学との付き合いはしばらく続きそうです。